

# 「伝統」を<sup>たす</sup>温ね、 「革新」する



①エリザベス女王即位 70 周年記念アートブック、②アートブックの出版イベントに展示した粉末みそ「umami・so」  
※メイン写真は、アートブックの出版イベントでの様子

2022年10月、エリザベス女王即位70周年を記念したアートブックに、早川しょうゆみそ株式会社(西町)の粉末みそ「umami・so」が掲載されました。世界中のラグジュアリーブランドが掲載される本アートブック。英国で開催された出版イベントに、同商品の開発者である早川薫取締役専務の姿がありました。

薫さんは、同社の7代目。平成元年に早川家の次男として生まれ、幼少期から家業を継ぐことも自然と将来の選択肢に入れていて、特に抵抗はなかったと当時を振り返ります。

その後、栃木県内の大学に進学した薫さんは、大学3年時に休学し、アメリカの大学に1年間留学。同国では語学を学びながら地元新聞社で働き、コミュニケーション能力を培いました。大学卒業後、早川しょうゆみそに入社し、社長が推薦した宇都宮のみそ会社に出向。1年半の期間に、みその製造を一から学びました。

2023年、欧州の展示会へ派遣される使節団の一員として選ばれている薫さん。「土地ごとに食の文化やルールが異なる。その土地に行くと、文化を知って、粉末みそをもっと広げていきたい」と熱く夢を語ってくれました。

都城の本社に戻った薫さんは、工場のみそやしょうゆの醸造などを経験。そんな時、知人の「みそもスパイスみたいになればいいの」の一言がきっかけで、粉末みその開発に精力を注ぐこととなります。工場に勤務しながら、終業後、一人で開発に向かう毎日。当時、フリーズドライのみそはあったものの、生みその味や風味は十分ではありませんでした。開発に当たっては「これまでのやり方と違う」などの反発を社内外から受けますが、そんな声にも負けず、開発を続けた薫さん。会社の未来を見据え、懸命に働く姿を見ていた社員の中から、いつしか徐々に肯定派が増え、アドバイスをもらえるようになりました。開発から3年後、粉末みそが形になり、2019年商品化にこぎつけます。商品を先に海外へ展開した薫さんは、英語が堪能なこともあり、海外の展示会に頻繁に呼ばれました。英語で伝統的なみそやしょうゆの説明ができる日本人は、貴重な存在でした。

2020年英国の旅行雑誌に広告記事の打診があり掲載。それを読んだ英国王室の担当ジャーナリストから、エリザベス女王の即位70周年を記念したアートブックへの掲載の声がかかりました。同ブックのきらびやかな出版イベントで「umami・so」を振る舞い、「セレブのリアクションを対面で受け取り、貴重な体験ができた」と笑顔を見せる薫さん。「ふるさとのみその味を家庭で食べて守ってくれる都城の人を大切にしながら、その味を世界に発信していきたい」と力を込めます。

2022年10月、エリザベス女王即位70周年を記念したアートブックに、早川しょうゆみそ株式会社(西町)の粉末みそ「umami・so」が掲載されました。世界中のラグジュアリーブランドが掲載される本アートブック。英国で開催された出版イベントに、同商品の開発者である早川薫取締役専務の姿がありました。

早川しょうゆみそ株式会社  
取締役専務  
早川 薫さん  
(西町)

# 人の風景

Smiling faces of miyakonojo